

REPORT III

芸術文化によるソーシャル・インクルージョン

- 福祉との連携の事例から -

社会研究部門 柄田 明美
tsuka@nli-research.co.jp

1. はじめに

ソーシャル・インクルージョン (Social Inclusion) という言葉をご存知だろうか。

ソーシャルとは「社会」、インクルージョンとは「包括すること」、「包含すること」の意味であり、日本語では「社会的包括」と訳されている^(注1)。幅広い解釈があるが、ソーシャル・インクルージョンとは、誰もが、社会、地域社会の一員として包括され、生きがいを持って生活することのできる状態のことであり、それを目指す概念、考え方である。

こうしたソーシャル・インクルージョンを実現するための媒介、回路として、福祉と連携する芸術文化による取り組みが、長年にわたって続けられており、その考え方、活動内容は大きく広がっている。本稿では、そうした取り組みを紹介し、ソーシャル・インクルージョンという視点から、芸術文化が社会、地域社会にどのような役割を果たせるのかを考えてみたい。

2. ソーシャル・インクルージョンと芸術文化

(1) ソーシャル・インクルージョンとは
欧米では、ソーシャル・インクルージョンは、

国や地域の社会保障や地域づくりの政策・施策の柱として一般的に用いられている言葉である。

ソーシャル・インクルージョンと反対の意味を持つ言葉としてソーシャル・エクスクルージョン (Social Exclusion) という言葉がある。エクスクルージョンとは「排除すること」、「締め出すこと」である。排除という言葉が強いが、障害、高齢、疾病、失業、低所得、国籍など、さまざまな要因から、社会との関わりが持ちにくい、あるいは社会との関わりが希薄になることは多い。ソーシャル・インクルージョンとは、こうしたエクスクルージョンの状態にある人を排除するのではなく、多様性として、社会が受け入れていく考え方でもある。

わが国では、平成12年12月に当時の厚生省から出された「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書^(注2)で、新たな社会福祉を支えるための「公」の創造の概念としてソーシャル・インクルージョンの必要性が提案されている。それを受け、千葉県、大阪府、横浜市をはじめとする地方公共団体、そして地域のNPO等が、地域福祉や社会福祉の基本計画を支える理念としてソーシャル・インクルージョンを打ち出している。

(2) 福祉と芸術文化との連携事業

こうした福祉と芸術文化との関わりについては、広く生活文化を含めた余暇活動による生きがい創出や、美術館や劇場・ホールのバリアフリーの観点からの車イス等でのハード面でのアクセス確保は一般的によく知られている。また、実は、長年にわたって、高齢者や障害のある人の鑑賞活動や、表現活動、創作活動を支えるためのしくみづくり、社会構築に関する継続的な活動が行われており、近年、その活動の内容、対象とする芸術文化のジャンル、活動の主体が広がってきている。

『アクセス・アーツ2007 - 障害のある人のための芸術文化ガイド』^(注3)では、アートセンター・アートスペース・ギャラリー、美術鑑賞、美術団体、舞台芸術(パフォーミングアーツ)、舞台・映画鑑賞、ホール、ネットワークなど、多様な活動を実施している106団体の情報を掲載している。このガイドブックを中心に、活動の全体像をみてみよう(表-1)。

美術ジャンルを中心とする取り組み

掲載内容をみると、活動ジャンルでは、美術における取り組みが活発で、制作・創作、美術教育など、アートセンターやアートスペース等

表 - 1 福祉と芸術文化の連携事業

ジャンル/活動	活動、事業の概要、傾向
アートセンター アートスペース ギャラリー など	<p>社会福祉法人が通所施設などの自立支援施設をアートセンター、アートスペース、工房等として地域に活動と場を開き、創作活動のためのセンターとして開く活動が主体。 [たんぼの家アートセンター-HANA(奈良県)、アートかれん(神奈川県)など] NPOなどによるアートスペース、コミュニティスペース、ギャラリーなどの運営も多い。 [アートプラネット・みやぎ(宮城県)、ギャラリーTOM(東京都)など]</p>
美術館(含む公共施設) 美術鑑賞グループ	<p>視覚障害のある人との協働作業による音声ガイドの作成[せんだいメディアテーク(宮城県)] 視覚障害のある人のための美術鑑賞:ことばによる鑑賞(鑑賞ツアー、ワークショップの実施など) 美術館[水戸美術館、世田谷美術館、名古屋市美術館など] 美術鑑賞グループ[ミュージアム・アクセス・グループMAR、ミュージアム・アクセス・ビューなど] 研究会なども開催されており、美術館と鑑賞グループ相互の連携も行なわれている。 森美術館では、「ギャラリートーク」、「こどもツアー」、「おやこでツアー」のほか、「手話ツアー」、「耳と手でみるアート」といったプログラムを企画に応じて実施。</p>
舞台芸術(パフォーミングアーツ) 公立劇場・ホール	<p>演劇やダンスなどの身体表現、演奏などに参加をし、作品として創り上げていくための活動、事業が活発。 [「エイブルアート・オンステージ」、「音遊びの会」(音楽療法の実践)など] 視覚に障害がある人のための舞台説明会[世田谷パブリックシアター]、子どもや障害がある人が一緒に楽しめるワークショップなどを開催する公立劇場・ホール[金沢市民芸術村、富士見市民文化会館など]も増えてきた せんだい演劇工房10-BOXでは、同じ敷地内にある知的障害のある人たちの施設との交流プロジェクトを実施している。</p>

(資料)『アクセス・アーツ2007』2007年 財団法人たんぼの家、『百聞は一見をしのぐ』2005年 エイブル・アート・ジャパン(美術館、美術鑑賞グループ)、各機関・団体のホームページ等より作成

3. 具体的な活動事例

で参加型の多様な活動が行われている。運営主体は、社会福祉法人、あるいはNPOが中心である。

また、公・民の美術館では、多様な障害に対応した美術展の開催、ガイドツアーの実施、視覚障害がある人のための音声ガイドの制作や、共同の企画展の開催を積極的に実施しており、鑑賞をサポートするグループも作られている。

舞台芸術を中心とする取り組み

従来より美術ジャンルによる活動が多かったが、近年、舞台芸術（パフォーミングアート）における新たな試みが進んでいる。演劇やコンテンポラリーダンスといった舞台芸術（パフォーミングアート）の活動も数多く掲載されており、公立劇場・ホールでも、参加型ワークショップや高齢者を主体とした舞台づくりを行なっている。

ネットワークやプロデュースなどの中間支援

そのほか、NPOなどの任意団体を中心としたネットワークづくりや事業のプロデュースなどの中間支援を行なう団体も出てきている。

新たな視点の活動としては、大阪・浪速区のフェスティバルゲートに拠点を置く「ココルーム」では、ホームレスを経た生活保護受給者の表現による自立支援や、若者や障害のある人を広く対象とした就労支援カフェ事業などを行っている。ココルームを運営しているのは、「特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋」。雇用、ひきこもりといった現代の社会的な課題に芸術文化が一步踏み込んでいることは、新しい動きである。

ここでは、数多くの活動、事業の中から、障害のある人たち、高齢者の創造活動を具体的な活動事例を紹介する。障害のある人たちによる芸術文化の可能性をさぐるエイブル・アート・ジャパン、高齢者福祉施設等へのデリバリー講座を行うNPO芸術資源開発機構である。

(1) エイブル・アート・ジャパンによる

「エイブル・アート・ムーブメント」の実践
エイブル・アート・ジャパン（東京都中野区）^(注4)は、1994年に日本障害者芸術文化協会として発足したNPO（2000年にエイブル・アート・ジャパンに名称変更）である。障害のある人たちの芸術文化活動を結ぶ横断的なネットワークの必要性に応え、そのネットワークを担うために作られた組織。「エイブル・アート」とは、「可能性の芸術」で、アートの可能性、人間の可能性を再発見することという意味を持つ。

1995年、エイブル・アート・ジャパンは、長年にわたり、障害のある人たちの自己表現のために芸術文化を柱とした活動を展開している財団法人たんぼぼの家^(注5)と共同で「エイブル・アート・ムーブメント（可能性の芸術運動）」を提唱、このとき開催したフェスティバルが美術関係者や企業の共感を呼び、美術館における展覧会、ワークショップ等の開催に繋がった。

企画展としては、「エイブル・アート '97 東京展 魂の対話」（1997年 東京都美術館）、「エイブル・アート・コラボレーション '98 VIVIRA - 命のはじまり」（1998年 ベネッセコミュニケーションギャラリー）、「エイブル・アート '99 このアートで元気になる」（1999年 東京都美術館）を開催するほか、企業などからの寄付金を財源として、1998年度から創作活動

を支援する「エイブル・アート・アワード」を実施している。

2003年度には、舞台芸術ジャンルでの可能性を開くため、「エイブル・アート舞台人養成講座」を開講、2004年度からは、民間企業の社会貢献プログラム^(注6)と連携し、「エイブルアート・オンステージ」という舞台づくりの事業を実施している。「エイブルアート・オンステージ」は、次の3つのプログラムから構成されている。

活動支援プログラム：障害のある人が参加する、さまざまな舞台芸術の取り組みに対して上限150万円を支援

コラボ・シアター・フェスティバル：活動支援プログラムに参加したグループの成果の発表、フォーラムの開催

飛び石プロジェクト：英国の演出家によるワークショップを通じた交流・作品づくりのコラボレーションプロジェクト

このように、美術からスタートしたエイブル・アートの事業は、ダンスや演劇といった身体表現にまで大きく幅を広げている。

(2) NPO 芸術資源開発機構：

アート・デリバリー

NPO 芸術資源開発機構 (NPO Art Resources Development Association：ARDA 以下ARDA)(東京都杉並区)は、2002年設立の特定非営利活動法人^(注7)である。

家族や地域社会という人間の基本的な絆の再生が求められる現代社会において、芸術の果たすべき役割はますます重要なものであるという問題意識から、杉並区在住・在勤の現代美術関係者が集まって、1999年から美術館、ギャラリーといったハコを飛び出した活動を開始した。

ARDAの活動の柱は、「アート・デリバリー」

である。これは、内外で活躍中の新鋭アーティストを高齢者福祉施設(特別養護老人ホーム、デイケアセンターなど)や児童館など杉並区内の公共施設に派遣し、舞台芸術、美術などのワークショップを行う事業である。余暇活動を余暇活動として捉えるのではなく、創造の時間を共有し心の相互交流を図るものだと捉えたものである。

2005年からは、民間企業の活動支援プログラム^(注8)により、「介護する人される人のための出張芸術講座」を杉並区特別養護老人ホームとの連携で実施している。これは、施設の利用者だけでなく、施設で働く人たちもともにリフレッシュし、自分を取り戻し、日々のケアにアートを生かすことを目指したものである。

2005年度は、ダンサーを招いての「からだをほぐす」、作曲家を招いての「即興で音楽遊びをつくる」、2006年度は、ダンサーを招いての「少しずつ自由になるために」といった、身体を使ったワークショップも実施されている。

(3) 活動の特徴

エイブル・アート・ジャパン、ARDA、2つの団体とも、実質的な事業の実施主体であるとともに、事業・活動を通じて社会のあり方を考え、提案する「運動(ムーブメント)」であり、それを実現するための中間支援組織でもある。これは、2つの団体ともにNPOという活動主体の特徴でもあるだろう。エイブル・アート・ジャパンでは、障害とアートやアートとソーシャル・インクルージョンに関する海外の先駆的な活動事例や社会化のための概念を取り入れるためのフォーラムの開催や、美術や舞台芸術の活動主体への支援といったネットワーク形成に力を入れている。また、ARDAも施設と芸術文化を結ぶネットワーク形成に活動の重点

を置いている。

2つ目の特徴は、これら活動、事業が、高齢者や障害のある人の主体的な創造活動を成果として発信していること。そこに、美術館のキュレーター、現代美術作家、現代演劇の演出家やコンテンポラリーダンスの振付家等といった芸術文化側が深く関与していることである。

3つ目の特徴は、エイブル・アート、ARDAともに、福祉側の現場との密接なつながりがあることである。これは、現場との連携があってこそその活動、事業であり、施設側の興味と理解と協力がなしには活動、事業が成立しえないことを反映していることでもある。福祉の現場との連携は、現場の成果としてさらに継続的な事業へと発展する可能性がある。

4. 芸術文化の可能性と今後の課題

(1) 芸術文化による効果

芸術文化と福祉等との連携の効果としては、まず、個人としての癒し、生きがいの創出があることは言うまでもないだろう。

ARDAでは、このアート・デリバリー事業で期待される効果として、単なる余暇活動に留まらない創造活動の機会提供、芸術を通じた創造性の交換・人間交流・地域交流、日頃、高齢者と接している現場担当者の心の回復、施設におけるスタッフ教育とそのノウハウの蓄積、アーティストにとっての創造エネルギーをあげている。施設側でも、利用者の本物の顔が発見されることで、介護者もその充実した表情に感動することで、職員自身も元気づけられるという声があがっている。^(注9)

また、社会との関わりが薄くなりがちな入居者とともに、施設自体が社会化するという効果もあると言う。コンサートや展覧会をきっかけ

に、施設に市民が訪れたり、また、アーティストや中間支援組織の担当者が事業で訪れることは、人だけでなく、施設という場を地域に開いていくことにつながるのである。病院などの医療機関でも、ホスピタル・アートとして、病院の壁面にアーティストが絵を描いたり、ロビーコンサートを開催するといった試みが行われており、地域へのつながりを生むという効果が認められている。

(2) 今後、より連携を進めるために

芸術文化と福祉を結ぶ活動は、実施主体の長い模索の結果、効果が実証され、社会的に認知されてきたものである。

こういった活動を進めていく難しさの一つに、障害や高齢、疾病といった専門的なケアと配慮が必要なジャンルとの連携であるということがある。福祉の側からみると、芸術文化はとらえどころのないものであり、活動内容も、連携による効果もつかみにくい。また、芸術文化の側からみると、通常の創作活動に比べて、より細やかな配慮と知識が必要となる。

今後、一層の連携を進めるためには、活動の効果の検証を行い、課題を福祉サイド、芸術文化サイド双方で共有し、目に見える形で発表・発信していくことが最も重要なことであろう。ただし、この検証は、福祉の現場に協力を募り、事業後のアンケートやインタビューで波及効果を丁寧に追っていく作業が必要であり、時間と手間がかかるものとなる。

財団法人たんぽぽの家やエイブル・アート・ジャパンでは、エイブル・アート、ケアする人のケア等に関するフォーラムやシンポジウムの記録、活動事例を出版物としてまとめている。こうした活動を推進する中間支援組織の広がりが求められるとともに、企業による支援事業、

あるいは、公的施設や団体による事業の場合は、参加者へのアンケートやグループインタビューなどの調査や、展覧会や公演のフォローアップレポートなどを発行するための予算もつけていくといったことができるというだろう。

また、芸術文化サイドでは、事業、活動に携わっているNPOの人材、アーティストのノウハウと経験を共有し、評価し、蓄積していく必要がある。

芸術文化は、もともとアーティストの多様な価値観、表現活動から生まれるものである。エイブル・アート・ジャパンの太田氏は、「障害があることを個としての違いであると考え、その「違い」から生まれる感性溢れる表現の創造性と自己表現することの重要性を社会化するために、アートの可能性は大きい」と言う。

多様性を表現する手段として、また、多様性を社会に受け入れる回路として、芸術文化は、ソーシャル・インクルージョンに大きな役割を果たすことが可能であるのではないだろうか。

-
- (注1) ソーシャル・インクルージョンは、ソーシャルインクルージョンと表記する場合があります。また、日本語訳も多様であるが、本稿では、「ソーシャル・インクルージョン」と表記する。
 - (注2) 「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」報告書：<http://www.mhlw.go.jp/>の中で、ソーシャル・インクルージョンは、次のとおり説明されている。：「イギリスやフランスなどのヨーロッパ諸国で近年の社会福祉の再編に当たって、その基調とされている理念。貧困者や失業者、ホームレス等を社会から排除された(expatriate)人々として捉え、その市民権を回復し、再び社会に参入することを目標としており、その実現に向けて公的扶助や職業訓練、就労機会の提供等が総合的に実施されている。」
 - (注3) 『アクセス・アーツ 2007 - 障害のある人のための芸術文化ガイド』2007年 財団法人たんぼの家
 - (注4) エイブル・アート・ジャパン：<http://www.ableart.org/>
 - (注5) たんぼの家<http://popo.or.jp/index.php>
たんぼの家は、障害のある人たちが地域の中で人間らしくいきいきと生きられる社会をつくろうという思いから設立され、1976年に自立を支援するワークセンターを運営する財団法人として認可された。現在、財団法人たんぼの家（ソーシャル・インクルージョンをテーマに、アートの社会的意義、人権文化、ケアの文化等に関する事業を行うNPO）、社会福祉法人わたぼうしの会（障害者支援施設たんぼの家、たんぼ生活支援センター、福祉ホーム コットンハウス等の施設・サービスの運営）、奈良たんぼの会（財団と社会福祉法人を支えるボランティア組織）の3つの組織から構成されている。長年にわたり、障害のある人たちの自己表現のために芸術文化を柱とした活動を先導的に展開している。
 - (注6) 明治安田生命社会貢献プログラム
<http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/society/welfare/index.html>
 - (注7) NPO芸術資源開発機構 <http://www.arda.jp/>
 - (注8) ファイザー製薬 心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援 <http://www.pfizer.co.jp/pfizer/index.html>
 - (注9) 「ケアの仕事をする人のケア - 職場環境を考える講座」2007年3月17日配布資料（主催：財団法人たんぼの家）